

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ユニット毎に作成し、来訪者、入居者様や職員がいつでも閲覧できるよう玄関に掲示をしている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの指針とし、スタッフ一同周知徹底を図り、理念の実践に向けた取り組みをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族様へは説明により理解してもらえるが、地域へは理念を伝える機会少なく、浸透は図れていない。	○	今後、運営推進会議への出席を促しや研修会を実践する等により、浸透を図りたい。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民と入居者様が会話をしている場合があるが職員については挨拶程度である。	○	積極的にコミュニケーションを図る努力をし、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なお付き合いができるようにしたい。。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校児童との交流があり、ホーム内や校内での演奏会等を披露して下さっています。教職員とも気軽に連絡を取り合っている。町内交流は祭りのイベントで交流があり。ホームにやぐらが入ってくれる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	子供100番にホームが登録された。小学校への授業講師としての参加実績あり。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での指摘項目についてミーティング等で周知徹底をし、具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて評価の内容を報告・説明、改善項目や取組内容についても説明をしている。会議欠席者については書面の郵送をしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	阪南市介護保険課より介護相談員2名を定期的に受け入れており、夕涼み会のイベントに参加を促して交流を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携を取り、必要であれば家族様と話し合う。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法、高齢者虐待の具体例、通報、身体拘束に対する考え方等を本社研修資料を用いての会議やミーティングで研修を実践し、理解した上で虐待や身体拘束の防止に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本社の事業部長が契約に立会い、十分な説明を行い、不安点や疑問点について尋ね、理解や納得を得ている。外部評価調査報告書を提示し情報公開をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を受けた場合の他、相談や要望が合った場合、苦情(相談)対応記録に記録し、要因分析を行い、再発防止の取り組みを行い改善に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族様への預かり金報告(小口現金出納帳にレシート原本を添付)や、日常生活の様子(ホームの便り)を郵送している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の体制の概要を玄関にて掲示をしている。不満や苦情が発生した場合には、苦情(相談)対応記録に記録をし、分析を行い、再発防止の取り組みを行っている。運営推進会議での意見や要望にも可能な限り反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングにて意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニットの状況により、一部勤務時間を変更している。入院や緊急時には職員の増員にて対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員のなじみの関係を重視し、異動や離職を最小限に抑えるよう努めている。離職を避ける為にもホームでは、働きやすい職場作りに心がけています。新職員は利用者になじむよう努力し、家族様のも挨拶、紹介を徹底している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長を中心に機会教育はできているが、外部研修の参加については人員不足で積極的な参加はできていないが、職員の研修参加の要望があれば応じている。	○	各人別の研修計画をたて、計画的に人材育成を行っていききたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集団指導や研修等で挨拶、情報交換する程度である。グループホーム連絡会に加入している。	○	今後、積極的に同業者と情報交換をし、サービスの質の向上に努めたい。又、連絡会の相互実習に必ず参加していききたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		○	今後、親睦会の実施や定期的な個人面談の実施、外部者との交流ができる機会作りを積極的に行っていききたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格手当による能力・知識向上意識の高揚を図っている。人事考課表による評価制度を導入し、昇給や賞与の決定に反映させている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	会話の中から本人の思いを傾聴し、その思いを受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前より面談にて家族様の思いを傾聴し、その思いを受け止める努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を見極め、対応をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの本人らしい生活が継続されるよう、馴染みの設えを整えていく事から徐々に努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活同居人として本人の傍らに寄り添いをし、信頼関係の構築を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月ケアプラン送付時に家族様への手紙を同封し、意見等を返送して頂いている。来設時や運営推進会議の際、コミュニケーションを図り、要望等を把握できるような信頼関係の構築を図っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの生活歴や生活環境の把握をし、関係の理解やより良い関係の構築が築けるよう支援をしている。認知症だから・・と思う家族様に本人のできる事や新しい発見等も伝えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等の制限はしていないので、友人等本人に関係する人々の来設がある。それに加え、本人宛の郵便や年賀状が届いている。家族様に依頼をし、気軽に来設してもらえよう声かけをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は入居者様間の懸け橋となり、入居者様同士の関係作りを図っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も来設される家族様もあり、関係が断ち切れない付き合いを行っている。又、家族様が必要とされる場合には対応をしていきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の傍らに寄り添い、一人ひとりの感情の把握に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を尊重し、過去から現在・未来へとその人らしさ継続される生活が営めるよう支援している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	観察からの気づきを大切に、それぞれの暮らしの現状を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族様へ毎月モニタリング内容を送付し要望や意見を記入してもらい、それらを踏まえた計画作成をしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状況の変化に応じ計画の見直しを実施している。又、短期目標の期間(3か月)での計画の見直しを実施している。家族様の思いを聞き、それらが計画に反映されている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の普段どおりを理解し、観察からの気づきやそれに対してのあらゆる視点から工夫を図っている。普段と異なる点があれば個人記録に記入をし、職員間での情報共有や計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応の居住環境や職員の機能、医療連携体制を活かしてその利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処遇を受けながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避の支援を行っている。そのために24時間健康管理、医療活用の強化を行っている。自主サービスとして特別な外出支援、通院移送サービス、外泊支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	阪南市介護保険課に登録され、専門的な研修を受講された介護相談員をボランティアとして受け入れ、地域と協力をしながら支援をしている。又、家族様協力のもと、演舞のボランティアが来設された。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居中は他サービスを受けることは不可能であるが、退去時の他サービスを受ける希望があれば必要な措置を講ずる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等で地域包括支援センター職員も必ず出席されており、必要時には支援依頼が出来る体制となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様の希望を尊重し、かかりつけ医及び提携医療機関にて適切な医療が受ける事ができるよう支援をしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科・精神科専門の白井病院の医師と連携しており、本人・家族様の要望と合意の上、相談や診療を受ける体制を整備している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの医療連携を図っており、毎週1回の定期的訪問がある。又、24時間体制をとっており、緊急時も訪問をしてくれる。医師との連携をし、定期的な健康管理や医療の活用をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師との話し合いの場にホーム長・管理者が同席し、情報交換や相談に努めている。提携医師の指示により最善の治療方針を確認をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル実施経験はなし。重度化の場合、家族様や医師と協議し、方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナル経験はないが、家族様や関係機関と協議していきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族様へダメージ発生の可能性を説明し、本人の精神状態の把握を行い、職員の周知徹底を図っている。ダメージを最小限に抑える事ができるよう、居室には本人の馴染みのある私物で設えを整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ちゃん付けで呼ばない等、本人の誇りを損ねる接遇がないよう、職員は周知徹底をしている。その人に合わせた接遇に配慮をしている。記録については、鍵のかかる場所に保管をし、流出する事がないよう厳格な管理をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常会話の中から引き出せるように会話に留意をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は存在していない。しかし生活のリズムの構築をする上でのおおまかなスケジュールを決めている。強制ではなく本人の意思やペースを尊重し、その人らしい生活が営める援助をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族様の希望により対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓で同じメニューと一緒に食べ、楽しみながらさりげなくサポートをし、観察から本人の嗜好品や食べたい物等を把握をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康状態を留意し、医師と相談しながら嗜好品を楽しめる支援をしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表より本人の排泄パターンを把握し、おむつに頼らないトイレでの排泄を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は朝から21時までの間、本人が好む時間に合わせ、ゆったりと楽しめる入浴の支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠剤は極力使用せず、日中の活気ある活動の支援により良眠ができるよう支援をしている。眠れない人がいる時には寄り添いをし、安定した精神状態で過ごす事ができるように支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で役割りや楽しみを持ち、存在感や生きがいを持つ事が出来るように支援をしている。歌が好きな人には歌番組やカラオケ、将棋が好きな人には将棋、料理が好きな人には料理やレシピ本を見る等、その人らしさが発揮できる支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	家族様の希望によりホームでお金をお預かりして いるが、買い物等での使用は自由。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	職員の人員の関係上多少の制限はあるが、買い物 時には同行する事を促している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	希望があれば対応したい。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援 をしている	希望があれば対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの 人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居 心地よく過ごせるよう工夫している	面会等の制限はしていない。宿泊や食事・外出が できており、餅つきや夕涼み会など一緒 に参加ができる行事を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法 指定基準における禁止の対象となる具 体的な行為」を正しく理解しており、 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急・特別な場合を除き、原則身体拘束は行わ ない。ホーム内研修を行い職員の周知 徹底が図られている。過去に身体拘束 は行っておらず、今後とも行わない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やユニットの入り口等鍵はかけていないので自由に出入りが可能である。道路に面した門のみ施錠をしているが事故の危険性が高いと警察の指導を受けた為である。家族様には説明と同意を得ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りの重視を徹底している。夜間にも定期的な様子観察をし安全に配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況に応じたリスク管理をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じたリスク管理をしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応について日常やミーティング、消防署主催の救急救命講習会の受講等にて周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害機器の操作方法、災害時の対応等、ミーティング等により周知徹底をしているが、入居者を含めた総合訓練は実施していない。	○	消防署等の指導・協力を得て実践をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族様の来設時に話す時間を作っている。又、月に1回本人の現状を記したお便りを郵送している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	2週間に1度の医師の往診を受けている。又、訪問看護との24時間連携をしており、体調の変化や異変に対応をしている。職員も食事量・水分量や便通、体重や体温の変化に留意をし、変化があれば全職員で情報の共有をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の説明書や薬剤師の説明により、作用と副作用の理解をしている。又、朝・昼・夜・眠前毎に個人別に分包をし、服薬管理表に基づき誤薬がない指示どおりの服薬介助を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	医師との相談や運動量・水分量の確保、食物繊維の摂取等、薬に頼らない自然な排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎週1回訪問歯科にて、医師や歯科衛生士の指導や、口腔内の洗浄や義歯の洗浄や調整を行っている。又、毎食後の歯磨きを行い、残存歯の維持に努めている。義歯は毎日洗浄剤に浸けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は日々記録をし、把握をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルに基づき実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾は毎日消毒をしている。食品によっては冷凍保存を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入口には鉄製の門で施錠している為、近隣住民が訪問しやすい雰囲気とは言えない。	○	安全上の問題で警察からの指導を受けている為、解放は不可能。少しでも重いイメージを除く為、明るい色に塗り替えている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感ある飾りつけをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室・階段の途中のベンチや玄関外のベンチ等、個々や気の合う人と過ごす空間を設けている。1階2階とユニットに関係なく入居者様が行き来でき、思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	布団やタンス、ソファ等、本人に馴染みのある 私物で設えを整えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	日常の掃除にて、換気や温度調節に気を配ってい る。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	バリアフリーであり、必要個所には手すりを設け ている。又踏み外しの防止の為、階段に滑り止め を設置している。歩行困難な入居者の為、エレ ベーターの設置をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人ひとりの出来る事や出来ない事、手を差し伸 べれば出来ることを把握し、入居者の状況によ り見守りや支援をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ホームの庭にベンチを置いて、外での気分転換を 図れるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員対入居者ではなく、同じ釜の飯を食べる生活同居人として本人の傍らにおいて時間を共有し、本人の喜怒哀楽に寄り添い、ありのままの本人を受容する事が大切であると考えています。施設入居者だから・認知症だから「特別」ではなく、認知症という個性＝私らしさを持ちながらも地域の中で「普通」に生きる事、手を出す介護ではなく「普通」に生きる為の支援をする事をケアとしていきたい。